

「農業で安定した収入を！」



松浦 壽毅 (28歳)
(八幡浜市)

親元就農

1 就農の動機・理由

大学時代は大阪で経営学を学んだが、コロナ禍をきっかけに、改めて地元農業の大切さを実感した。4人兄弟の長男として家業を継ぐ責任を感じ、令和元年に親元就農した。

現在は、大学で培った経営の知識を生かしながら、家族とともにみかん栽培に取り組んでいる。

選果機 1台
耕運機 1台
動力噴霧器 1台

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和元年)	現在の経営 (令和7年)	将来の経営 (令和10年)
労働力	本人 父・母	本人 父・母 アルバイト1人	本人 父・母 アルバイト1人
経営耕地	樹園地 350a	樹園地 420a	樹園地 420a
経営内容	温州みかん 280a 中晩柑 70a	温州みかん 300a 中晩柑 120a	温州みかん 300a 中晩柑 120a

○農業用施設

農業用倉庫 2棟
山小屋 1棟

○主要農業機械

トラック 2台
フォークリフト 1台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県八幡浜市
職歴 なし
就農研修歴 なし
就農年月 令和元年4月

(2) 就農時の思い

小さい頃から収穫作業を手伝い、親からみかん栽培の話聞く中で、自然と農業が身近な存在となっていた。そうした経験や知識を土台に、家業として農業を継ぐことを決意した。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

家族や地元の先輩農家、JAの指導員に積極的に相談し、剪定・摘果・防除などの栽培管理技術について助言を受けながら、現場での実践を通じて技術の習得に取り組んだ。

(2) 資金の準備

コロナ禍で活用できる支援制度を使い、アルバイト雇用に係る補助金などを利用した。

(3) 農地・住宅の確保

親元就農のため、住宅や倉庫は確保できていた。

農地についてはこれまで耕作していた園地に加え、一部は山林を切り開いて開拓し、整備を行った。

(4) その他苦労したこと

収穫期には家族のみで作業を行っていたため、園地面積に対して人手が不足し、作業が追いつかない状況であった。

5 農業経営の特徴

4.2haの園地で温州みかん（早生・普通）、タロッコ、紅まどんななどを組み合わせた栽培を行っている。

家族と住み込みアルバイトによる体制で、繁忙期の労働力不足に対応している。品目ごとの作業時期の違いを生かし、労働力の分散と作業効率の向上を図っている。

6 これからの夢

将来的には法人化を目指し、安定した労働力を確保できる経営体制を構築したい。また、品質向上と収量増加の両立を目指す。

7 成功したキーポイント

家族や地元農家、JA、行政など、周囲の方々からの助言や支援、情報提供を受けながら経営を進められたこと。

先進的な栽培技術（マルドリ）を導入し、収量の安定化を図ることができたこと。

8 就農を目指す方へのアドバイス

農業は、努力した分だけ結果につながる仕事。大変な場面もあるが、地域の方々との交流を通じて多くを学び、刺激を受けながら、やりがいを感じることができる魅力的な仕事でもある。

就農に興味がある方は、まずは西宇和で農作業を体験してほしい。

○ 指導機関からのひとこと

松浦さんは、八西地区青年農業者連絡協議会の会長を務めるなど、地域の中心的な存在として積極的な活動を展開されています。活動内容は多岐にわたり、首都圏で開催される就農フェアへの参加をはじめ、東京大学みかん愛好会との交流、西宇和かんきつの出前授業などを通じて、西宇和地域の産地の魅力発信や次世代への農業理解の促進に大きく貢献されています。

また、自身の経営においても、将来的な法人化を見据え、安定した労働力を確保できる経営体制の構築や、品質向上と収量増加の両立を目指すなど、明確な経営ビジョンを持って取り組まれています。

個人経営の改善にとどまらず、地域全体を見据えた行動力と発信力を兼ね備えた担い手として、今後のさらなる活躍を期待しています。

執筆機関

八幡浜支局地域農業育成室

電話番号 0894-23-0163



摘果作業